

江田島市公共施設のあり方に関する基本方針（案）
パブリックコメント提出意見及び市の考え方

意見

- ・沖美ふれあいセンターの利用度を高めること
 - ・三高支所と老人集会所を統合した建物を建て、コミュニティプラザ的なものを設置すべきと思う。
 - ・三高港の建替えを急ぎ、集会所的機能を持たせることを考えてはどうか。
- 今後ますます高齢化が進み、人口減が急激となると予測される。沖美町の市民センター設置やコミュニティ交流プラザ設置等の施設は地域住民と十分協議が必要である。ワークショップでは住民の意思を十分に反映することは困難であり、意見交換会を重視してもらいたい。
- 施設の運営管理を地域住民団体に求めるのは困難となる（住民減少、高齢化のため）ので、現存の施設を考えるべきである。
- ・三高港の整備（待合所）はどうするのか。集会所、沖美支所、市民センターなどと一体的に整備すべきと考えますがどう整理するのか。

市の考え方

全公共施設の維持するためには、約40年間で640億円かかると試算されており、市がこれを負担することは困難となっています。この状況を踏まえ、基本方針（案）では、“自治会等コミュニティレベルの施設は1地区1施設”を原則に、類似施設が複数ある地区については統廃合や複合化に取り組む、また、市民意見の反映に努めることとしております。

三高地区につきましては、ほかの地区と同様に、再編・整備に当たって、地元の実情、公共施設の配置や市の財政状況などを踏まえ、地元協議を行い、施設の集約に取り組んでまいります。

市の考え方

市の最上位の計画である「第2次江田島市総合計画～基本構想～」(平成26年2月)や将来の都市構造と都市づくりの方針を示した「江田島市都市計画マスタープラン」(平成23年3月)を踏まえながら、総合的な支所の配置など、現行制度にてらし、また地区の公共施設の状況などから、沖美市民センターを設置するものです。

また、この基本方針(案)は、施設自体(ハコモノ)の再編・整備の方向性を掲示するもので、現行の支所、出張所、連絡所機能を廃止するものではありません。

なお、P8、P9については「第2次江田島市総合計画～基本構想～」の表現に時点修正しています。

意見

P12の「コミュニティ交流プラザ」という名称は言いにくいのもっと端的にしたほうが良い。

市の考え方

基本方針（案）では、「コミュニティ交流プラザ」という名称を使用しておりますが、「コミュニティ」をはずし「交流プラザ」という表記に変更しました。

意見

この基本方針P.8表2都市構造区分で、三高地区は地域拠点とされ、P.18「2 方針に基づく本庁・支所機能」③で「沖美町に市民センターを整備」と記載されている。しかし、江田島市庁舎整備ガイドライン(案)ではP.6「(3) 庁舎別組織機構の配置」で「※沖美庁舎は市民センターとして新築し、支所を配置」と記載され、「整備及び移転スケジュール」(A3)で沖美市民センター※新築(H27旧沖小学校を解体し、新築する旨)の記述があります。

沖小学校跡地ではなく地域拠点である三高地区に沖美庁舎(市民センター)を建設することが、本来の姿だと思われまます。

そして、1つの町に1支所の設置であれば、沖美町では三高地区が人口も多く、保・小・中学校も存在しており、海生交流協定を締結している広島市への通学・通勤者が多数います。広島市への西玄関口である三高港を早急に整備し、沖美庁舎を同居させた複合施設を三高に建設することが今後の江田島の将来にとって良策であると思ひます。再検討をお願いします。

ただし、沖地区には「コミュニティ交流プラザ」の設置が必要条件となります。

沖美市民センターは必要ないと考えられます。人口が次第に少なくなつて、利用価値も低下して、財政困難な市としては、時代の流れとして仕方がない運用方法と考えられます。